

則の名を見ぬが、或は初名をかくいうたのであらうか。

ハタケヤマムネタケ 畠山統武 ↓ハタケ

ヤマヨシフサ 畠山義總。

ハタケヤマムネヨシ 畠山宗義 ↓ハタケ

ヤマヨシフサ 畠山義總。

ハタケヤマモトクニ 畠山基國 義深の子。

通稱三郎。右衛門佐に任ぜられ、能登・越中・河内・紀伊の守腹を兼ねた。應永五年管領となり、同十二年に及び、十三年正月十七日五十五歳を以て卒し、長禪寺春岩徳元と諡せられた。

ハタケヤマヨシアリ 畠山義有 義忠の子。

治部少輔。景徐周麟の大寧寺殿七回忌法語に、『王父早卒南軍』と見えて、大寧寺は義有の子義統であり、従うて王父は義有である。然れば永享九年より慶大和・河内に騒亂があつたから、義有も之に従軍して戦死したのであらう。東福寺正徹の草根集にも、永享五年三月十一日の條には義有が北野に百首の詠歌を奉つたことをいひ、六年五月三日・八月五日・八年九月六日にも義有の和歌に關する記事があるが、これより後にはその名を見ぬ。又別に畠山義綱の子二本松伊賀守も諱を義有といふた。

ハタケヤマヨシウチ 畠山義氏 ↓ハタケ

ヤマヨシモト 畠山義元。

ハタケヤマヨシタカ 畠山義隆 幼名次郎。

修理大夫・左衛門佐。父義綱が永祿八年の交重臣の爲に追放せられた後家を襲いだ。越登賀三州志によれば、天正二年七月義隆は齡十九にして遊佐綱光の爲に鳩殺せられ、幽徳院宗永と諡せられた。蓋し義隆は少壯氣鋭に

して、綱光が權を擅にするを得なかつたによるとする。

ハタケヤマヨシタダ 畠山義忠 滿慶の子。

初名義慶。父に次いで能登を領し、別に越中射水郡阿努庄即ち今の水見郡を加へた。義忠は左馬助・阿波守を経て修理大夫に任ぜられた。晩年に至り宗家内訌の餘波を受けて頗る衰光を顯し、遂に東山に退隱して、寛正二年八月廿一日卒した。法號龍興寺芳彦賢良。

續群書類従所載畠山匠作享詩歌は興行の年月不明であるが、賢良即ち義忠が主人であつたものであり、東福寺正徹の草根集にも、永享元年より長祿三年まで毎年義忠の詠歌を載せてある。

ハタケヤマヨシタネ 畠山義胤 ↓ハタケ

ヤマヨシツナ 畠山義綱。

ハタケヤマヨシチカ 畠山義親 七尾畠山氏の支族。珠洲郡松波に居り、父義龍の時から松波氏を稱した。義親文武に剛み、華土と號して書を能くし、又禪を滿福寺に修めたが、天正五年七尾藩城の際戦死した。子義連・辰王丸を越後の稱念寺に避け、後長連龍の起るに及んで、慶長四年來り投じた。之より義連は長興六左衛門と稱して祿三百石を受け、辰王丸は松波義直と稱して百五十石を食み、後更に義連は畠山氏に復したといふ。

ハタケヤマヨシツグ 畠山義綱 義總の子。

能登の守腹。左衛門佐。天文十四年相續し、二十年出家して徳祐といひ、家をその子義綱に譲つたが、尙後見として世務を執つた。永祿八年の交義綱の國を追放せられるに及び、共に退きて還住の策を講し、同十年と思はるゝ二月十日附の消息に、尙上杉輝虎に對

し新正を習したるを見る。されば從來義綱の死を弘治二年に在るとした舊説の非なるを知るべきである。

ハタケヤマヨシツナ 畠山義統 義忠の孫。

義有の子。能登の守腹で左衛門佐に任ぜられた。世本修理大夫とするものは誤であらう。應仁の亂に、義統は終始西軍に屬し、義親を率じて抗争したが、文明九年力盡きてその邸を燒き國に歸り、十年七月兩軍の和成るに及んで義統も幕府に歸順した。又長享二年加賀の一揆が富樫政親に抗した時に、義統は將軍義尙の命に依つて兵を出したが、遂に一揆の爲に敗を取つた。明應六年八月二十日卒し、大寧寺大彦徳宗と諡せられた。義統連歌を好み、その文明十五年十一月二日に興行した賦何船連歌の一巻は今七尾に存してゐる。

ハタケヤマヨシツナ 畠山義綱 義親の子。

通稱次郎。後修理大夫。天文二十年義綱の諷を受けて家を繼いたが、次いで漸く非行があつたので、家臣等相謀して義隆を立て、義綱を逐うた。その年代は明らかでないが、永祿八九年に在るべく、是より常に歸國の計を爲し、十一年一たび能登に侵入したこともあるが、遂に能く目的を達せざるうちに、天正五年上杉謙信の爲に奪はれたのである。義綱は凡そ永祿十一年から推定元龜四年七月十日の消息までは名を義胤といひ、次いで改名して推定天正元年八月十一日の消息より再び義綱と署せられ、黒印に福胤と號したものである。又越登賀三州志に據れば、畠山義綱の卒去の後、義則家を繼ぎ、義綱之が陣代となつたと記するが、義綱の後を受けた者の義綱であることは明瞭なる事實なるのみならず、義則の名は確實なる史料に發見するを得ぬ。しかし六角系圖の一番に、六角義賢の女が義綱に嫁したといふべき所に、能州牧畠山義則に嫁すと記し、又長氏の家に永祿四年正月畠山義則長家御成記といふものを傳へるから、或は義綱の初名が義則であつたかも知れぬ。

ハタケヤマヨシトホ 畠山義深 家國の子。通稱三郎。尾張守に任ぜられ、能登・越中・河内・和泉・紀伊の守腹を兼ねた。畠山氏が能登の守腹たることはより始る。康暦元年正月十二日四十九歳を以て歿し、法號を増福寺と諡られた。

ハタケヤマヨシトモ 畠山義智 畠山義統の子。珠洲郡松波に築き、田三千八百貫を領した。後大隅守義成・常陸介義遠及び義重を経て義龍の時に至り、氏を松波と改め、義龍の子は義親であつた。

ハタケヤマヨシノリ 畠山義則 ↓ハタケ

ヤマヨシツナ 畠山義綱。

ハタケヤマヨシハル 畠山義春 式部大輔。

天正二年畠山義隆がその臣遊佐綱光に毒を進められた時、義春は二歳であつたが、長綱連及び叔父二本松義有の輔佐によつてその後を受けた。四年十月上杉謙信が義春の七尾城を攻めた後、義春は諸將と共に城に在つたが、五年閏七月疫疾大に行はれるに及んで、廿三日五歳で歿したといふ。案するに義春が元服前にして式部大輔に任じ、且つ義春の諱を有するものは訝しい。諸系圖所收の畠山系圖等に春王丸とするを是とすべく、長家系譜には亦單に式部に作つてゐる。その義春の名は、後に上條政繁となつた畠山義綱の末子彌五郎義春と混じたのでもなからうか。又歴代古案